

横浜国立大学大学院

卓越大学院プログラム

パワー・エネルギー・プロフェッショナル(PEP)育成プログラム

2025年度13大学共通プログラム要項
(別冊 研究科要項)

大学院理工学府

化学・生命系理工学専攻

数物・電子情報系理工学専攻

目 次

I. PEP 育成プログラムの概要と特徴	1
1. 本プログラムの概要	
2. 本プログラムの特色	
II. PEP 育成プログラムの学年進行スケジュール・審査要件等	2
III. PEP 育成プログラム履修要項	4
1. PEP 育成プログラム修了要件	
2. 早期修了制度	
3. 学科目配当表	
4. 先取り履修について	
IV. 卓越 RA 費の受給	1 4
1. 卓越 RA 制度	
2. 卓越 RA 費の受給	
V. 早稲田大学での学籍番号	1 4
VI. その他	1 4

I. PEP 育成プログラムの概要と特徴

1. 本プログラムの概要

本「パワー・エネルギー・プロフェッショナル(PEP)育成プログラム」は、13 連携大学（北海道大学、東北大学、福井大学、山梨大学、東京都立大学、横浜国立大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、徳島大学、九州大学、琉球大学、早稲田大学）による 5 年一貫の博士人材育成プログラム である。

本プログラムの目的は、カーボンニュートラルのコアの一つである「エネルギーバリューチェーンの最適化」による新産業創出を様々なセクターで主導する「知のプロフェッショナル」を輩出することである。

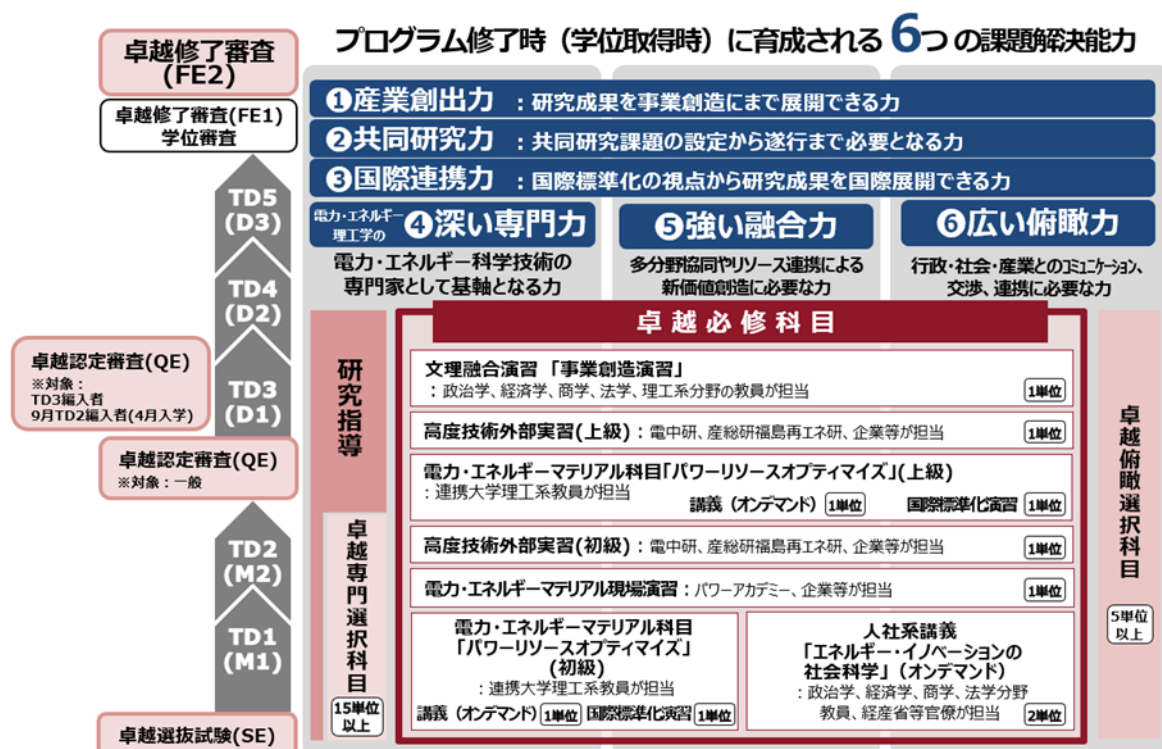
エネルギーマテリアル分野から電力システム分野までを含む教育を一貫通貫の単一課程とし、これによる技術イノベーションと、制度設計や従来になかった付加価値をビジネスとして結実させる社会的イノベーションとを両輪として目指す新たな学理「パワーリソースオプティマイズ」の体系的な教育研究プログラムを提供する。

国内 13 大学が連携して第一線の教員を結集し、連携機関との産学協働と海外大学との連携により、博士課程前期および博士課程後期合わせて 5 年一貫の世界に通用する質の保証された学位プログラムであり、この学位取得のプログラムを「PEP 卓越大学院プログラム」と呼ぶ。

プログラム生は自らの所属する大学の研究科・専攻（以下、「本属専攻」という）の履修・修了に加え、本プログラム修了要件を満たすことにより「PEP 卓越大学院プログラム修了証」が授与される。本プログラム授業科目は、卓越必修科目（7 科目 10 単位）が早稲田大学に設置され、それ以外の卓越専門選択科目等は本属専攻に設置される。早稲田大学に設置される卓越必修科目の履修にあたっては、オンデマンド形式、集中授業形式、学外連携先実習の形態で実施し、12 連携大学学生にも配慮した設計となっている。

なお、本プログラム修了は、本属専攻の履修・修了が大前提となるため、履修・修了について、本属専攻の要件等を必ず確認すること。

本プログラムの概要図を以下に示す。



2. 本プログラムの特色

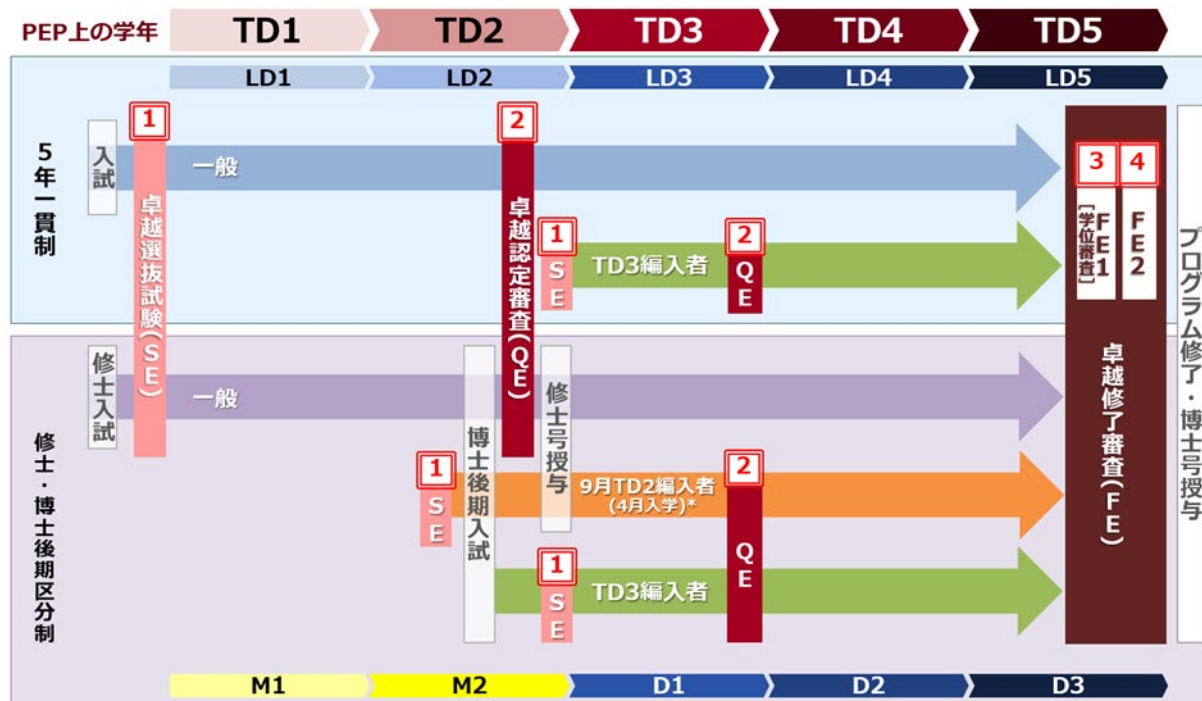
- 5年一貫のカリキュラム
- 本プログラム生の学年は TD1～TD5 と表記。TD1 が博士課程前期 1 年、TD3 が博士課程後期 1 年に相当
- 本属が早稲田大学以外のプログラム生には、早稲田大学大学院交流学生の学籍を付与
- 連携機関や企業等との共同研究等に参画することにより、RA 費などを各大学で支給
- 主指導教員、連携大学を含む副指導教員、企業等在籍・出身のコンサルティング教員からなる複数指導体制による質の担保
- 明確な評価基準に基づく厳格な卓越認定審査 [Qualifying Examination (以下 QE)]、学位審査を含む卓越修了審査 [Final Examination (以下 FE)] を実施し、毎年約 20 名の「パワー・エネルギー・プロフェッショナル」を輩出
- 本属専攻における学位審査を「FE1」と位置付け、PEP 独自の修了審査を「FE2」として実施し、それぞれに合格することで本プログラムを修了
- 本プログラム修了生には、13 連携大学連名の「PEP 卓越大学院プログラム修了証」を別途授与

II. PEP 育成プログラムの学年進行スケジュール・審査要件等

1. 学年進行スケジュール

本プログラムは、既存の博士課程前期 2 年間と博士課程後期 3 年間を合わせた 5 年間の一貫教育を前提として実施する。

イメージ図を以下に示す。



2. 各審査要件等

本プログラムにおける QE および FE2 は、PEP 卓越大学院プログラム連携協議会の統括の下で、以下のとおり行う。

		SE 区分	標準想定 時期	受験資格	審査項目	審査員・実施時期等
QE	一般	① ② ③ ④ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	TD2	・30単位以上履修(卓越必修科目3単位以上、卓越専門選択科目15単位以上、その他[卓越専門選択科目または卓越俯瞰選択科目から選択]12単位以上) ・学術論文(投稿中含む)1報	研究背景・成果、TD3以降の研究計画プレゼンテーション	【審査員】 主・副指導教員、コンサルティング教員、人社系教員
	9月TD2編入者 (4月入学) TD3編入者	⑤ ⑥ ⑦ ⑫ ⑬	TD3	・3単位以上履修(卓越必修科目2単位以上、その他[卓越専門選択科目または卓越俯瞰選択科目から選択]1単位以上) ・学術論文(投稿中含む)1報または学術論文投稿計画書	研究背景・成果、TD4以降の研究計画プレゼンテーション	【実施期間】 TD2：12月～2月末 TD3：12月～3月中旬 本属専攻秋学期入学者：6月～9月末
FE	9月TD2編入者 (4月入学) 一般	① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	TD5	<FE1> 本属専攻の定めによる <FE2> ・45単位以上履修(卓越必修科目10単位、卓越専門選択科目15単位以上、卓越俯瞰選択科目5単位以上) ・国際学会等での原則、連携機関との共著論文1報以上	<FE1> 学位審査(学位論文審査および口頭試問)	学位論文内に、研究の事業性や社会変革への貢献など文理融合領域に係る考察等を記載 【審査員】 <FE1> 本属専攻の定める審査員 ただし、副査として連携大学教員が参画
	TD3編入者	⑤ ⑥ ⑫ ⑬		<FE1> 本属専攻の定めによる <FE2> ・15単位以上履修(卓越必修科目10単位、その他[卓越専門選択科目または卓越俯瞰選択科目から選択]5単位以上) ・国際学会等での原則、連携機関との共著論文1報以上	<FE2> 事業性・社会的意義に関するプレゼンテーション	<FE2> 主・副指導教員、コンサルティング教員、人社系教員 【実施期間】 9月修了：6月～8月 3月修了：12月～2月

(*) 9月 TD2 編入者 (4月入学)

本属専攻 4月入学で、TD2 の9月からプログラム編入した学生を指す。

※単位の「履修」は、「履修中」を含む。ただし、履修中の単位を受験資格に含む場合は、当該単位の修得を合格の前提条件とする。

※TD3 編入者については、卓越選抜試験 (SE) において、QE と同等の基準でプレゼンテーション・口頭試問等を行うことにより、TD3 からの進入を可とし、TD4 進級前に QE 審査を行う。

Ⅲ. PEP 育成プログラム履修要項

1. PEP 育成プログラム修了要件

本プログラム修了に必要な単位数は、合計 45 単位（TD3 編入者は 15 単位）とする。本属専攻の修了生としての教養を修得しつつ、本プログラム履修の条件を満たすようにカリキュラムを編成している。そのために、本属専攻ごとに卓越専門選択科目・卓越俯瞰選択科目は異なる。

(1) 各大学共通

本プログラム修了要件は、卓越科目合計 45 単位以上（卓越必修科目 10 単位、卓越専門選択科目 15 単位以上、卓越俯瞰選択科目 5 単位以上）の修得、および国際学会等での原則、連携機関との共著論文 1 報以上、ならびに卓越修了審査 (FE1 および FE2) の合格とする。

また、修得した科目が、各本属専攻の修了必要単位数および本プログラム修了必要単位数の双方にカウントできる場合、双方の修了要件に有効とする。

(2) 本属が横浜国立大学であるプログラム生

早稲田大学での履修は卓越必修科目 10 単位のみとし、本プログラム修了に必要な残りの 35 単位以上（卓越専門選択科目 15 単位以上、卓越俯瞰選択科目 5 単位以上）は、本学大学院理工学府に設置された科目群より履修すること。

また、本プログラム修了必要単位とは別に、TD2 修了時まで、本学大学院理工学府が定める博士課程前期修了に必要な単位数を所定の履修方法で満たすこと。同様に TD3 から TD5 までに、本学大学院理工学府が定める博士課程後期修了に必要な単位数を満たすこと。各課程における科目履修方法については、横浜国立大学大学院理工学府履修案内の記載に従い、指導教員に確認をすること。

(3) 本属が横浜国立大学である社会人枠・留学生枠 TD3 編入者

早稲田大学での履修は卓越必修科目 10 単位のみとし、本プログラム修了に必要な残りの 5 単位以上（卓越専門選択科目または卓越俯瞰選択科目から選択）は、本学大学院理工学府に設置された科目群より履修すること。

また、本プログラム修了必要単位とは別に、TD3 から TD5 までに、本学大学院理工学府が定める博士課程後期修了に必要な単位数を満たすこと。当該課程における科目履修方法については、横浜国立大学大学院理工学府履修案内の記載に従い、指導教員に確認をすること。

2. 早期修了制度

本プログラムに進入した博士課程前期 1 年目（TD1）において、本学大学院理工学府が定める修了に必要な要件を満たし、本プログラムで定めた TD1 および TD2 配当の卓越科目 36 単位以上（卓越必修科目 6 単位以上、卓越専門選択科目 15 単位以上、卓越俯瞰選択科目 5 単位以上）を修得し、修士論文研究で優れた成績を上げたプログラム生について、指導教員の推薦にもとづき、PEP 卓越大学院プログラム連携協議会が認めた場合に限り、本プログラムでの 2 年目に博士課程後期（TD3）に進学することができる。その際、QE については、TD3 への進学前に実施する。

博士課程後期（TD3）以降、3 年を経ずにプログラム修了必要単位を全て修得し、博士学位論文研究で優れた成績を上げたプログラム生は、指導教員の推薦にもとづき、PEP 卓越大学院プログラム連携協議会が認めた場合に限り、審査要件を満たしたうえで卓越修了審査（FE1 および FE2）を受け、合格をもって本プログラムを早期修了することができる。

3. 学科目配当表

科目情報は諸事情により変更となる可能性がある。担当教員や授業形態、実施時期等はシラバスや時間割表で確認すること。

(1) 卓越必修科目(早稲田大学設置科目、連携 13 大学共通)

横浜国立大学のプログラム生については、本 9 科目 10 単位は博士課程前期および博士課程後期の修了に必要な単位には算入されない。

学科目名	開講学期	単位数	配当学年
パワーリソース最適化(初級)(講義)	夏季集中 オンデマンド	1	TD1 以上
パワーリソース最適化(初級)(国際標準 化演習)	夏季集中	1	TD1 以上
エネルギー・イノベーションの社会科学	春学期 オンデマンド	2	TD1 以上
電力・エネルギーマテリアル現場演習	夏季集中	1	TD1 以上
高度技術外部実習(初級) 電力クラス または エネルギーマテリアルクラス	夏季集中	1	TD1 以上
事業創造演習	夏季集中	1	TD1 以上
パワーリソース最適化(上級)(講義)	夏季集中 オンデマンド	1	TD3 以上

※TD2 以上でプログラム進入/編入した学生は、「配当学年 TD1 以上」の科目から優先して履修すること。

※初級・上級の区分がある科目は初級から履修すること。

※「高度技術外部実習」は「電力クラス」と「エネルギーマテリアルクラス」に分かれるため、卓越選抜試験(SE)で選択した専門分野を履修すること。

※「事業創造演習」は TD1 以上として配当されているが、TD3 以上からの履修を推奨する。

※TD1 で「(初級)」を履修したプログラム生のうち、特段に優れた成績を修めた者は、TD2 で「(上級)」の早期履修を認める。希望者は科目登録前に本属大学 PEP 事務担当へ申し出ること。

※配当学年が「TD3 以上」の科目登録について、QE 再審査対象者は「QE 合格」を前提条件とする(TD3 編入者、および 9 月 TD2 編入者 [4 月入学] を除く)。

(2) 卓越専門選択科目 (横浜国立大学大学院理工学府開講科目)

< I. 化学・生命系理工学専攻 (エネルギー・マテリアル系) >

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
NB10031	触媒化学	2	TD1 以上	○	○
NB10044	高分子設計学	2	TD1 以上	○	○
NB10081	光物理化学	2	TD1 以上	○	
NB10124	電子移動の化学	2	TD1 以上	○	
NB10141	触媒反応工学	2	TD1 以上	○	
NB10151	有機電気化学特論	2	TD1 以上	○	
NB10254	固体化学	2	TD1 以上	○	○
NB20011	プロセス計測学	2	TD1 以上	○	○
NB20334	流体熱物性特論	2	TD1 以上	○	○
NB20031	移動現象特論	2	TD1 以上	○	○
NB20043	先端燃料電池技術	2	TD1 以上	○	○
NB20051	エネルギー化学概論	2	TD1 以上	○	○
NB20064	エネルギー変換材料	2	TD1 以上	○	○
NB20084	力学機能材料学	2	TD1 以上	○	○
NB20104	環境分離工学	2	TD1 以上	○	○
NB20114	エネルギーバリューチェーンシステム概論	2	TD1 以上	○	○
NB20124	燃料電池工学	2	TD1 以上	○	○
NB20131	セラミックスエネルギー工学	2	TD1 以上	○	○
NB20141	発生工学	2	TD1 以上	○	○
NB20211	技術開発と社会	2	TD1 以上	○	○
NB20284	ミキシング化学工学	2	TD1 以上	○	○
NB20151	リスク分析論	2	TD1 以上	○	○
NB20191	微生物バイオテクノロジー	2	TD1 以上	○	○
NB20221	環境物理化学	2	TD1 以上	○	○
NB20254	機能性材料学	2	TD1 以上	○	○
NB20241	化学プロセス・シミュレーション	2	TD1 以上	○	○
NB20324	反応工学特論	2	TD1 以上	○	○
NB25101	プロセス工学解析実習 S	4	TD1 以上		○
NB25204	プロセス工学解析実習 F	4	TD1 以上		○

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
NB25301	プロセス工学技術創生実習 S	4	TD2 以上		○
NB25404	プロセス工学技術創生実習 F	4	TD2 以上		○
NB25501	創エネルギー解析実習 S	4	TD1 以上		○
NB25604	創エネルギー解析実習 F	4	TD1 以上		○
NB25701	創エネルギー工学技術創生実習 S	4	TD2 以上		○
NB25804	創エネルギー工学技術創生実習 F	4	TD2 以上		○
NB25901	バイオとライフの解析技術 S	4	TD1 以上		○
NB26004	バイオとライフの解析技術 F	4	TD1 以上		○
NB26101	バイオとライフ技術の創生 S	4	TD2 以上		○
NB26204	バイオとライフ技術の創生 F	4	TD2 以上		○
QB10021	触媒工学	2	TD3 以上	○	
QB10034	触媒設計学	2	TD3 以上	○	
QB10041	光機能材料	2	TD3 以上	○	
QB10054	電気化学デバイス特論	2	TD3 以上	○	
QB10061	機能高分子化学	2	TD3 以上	○	○
QB10084	有機電子移動化学特論	2	TD3 以上	○	
QB10151	錯体化学特論	2	TD3 以上	○	
QB10161	光物理化学特論	2	TD3 以上	○	
QB10204	固体化学特論	2	TD3 以上	○	
QB10214	有機イオニクス材料特論	2	TD3 以上	○	
QB20014	工業物質工学	2	TD3 以上	○	○
QB20021	材料電気化学	2	TD3 以上	○	○
QB20034	エネルギー化学特論	2	TD3 以上	○	○
QB20044	エネルギー機器材料学	2	TD3 以上	○	○
QB20051	エネルギーバリューチェーンシステム特論	2	TD3 以上	○	○
QB20061	エネルギー変換プロセス	2	TD3 以上	○	○
QB20074	エネルギー素材科学	2	TD3 以上	○	○
QB20081	物質環境エネルギー工学	2	TD3 以上	○	○
QB20101	化学エネルギー工学	2	TD3 以上	○	○
QB20114	分離工学特論	2	TD3 以上	○	○
QB20121	生体高分子工学	2	TD3 以上	○	○
QB20141	環境化学反応論	2	TD3 以上	○	○

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
QB20164	発生工学特論	2	TD3 以上	○	○
QB20174	機能性材料科学特論	2	TD3 以上	○	○
QB20194	ミキシング化学工学特論	2	TD3 以上	○	○
QB25301	イノベーション化学プロセス実習 S	4	TD3 以上		○
QB25404	イノベーション化学プロセス実習 F	4	TD3 以上		○
QB25501	エネルギー先端創生実習 S	4	TD3 以上		○
QB25604	エネルギー先端創生実習 F	4	TD3 以上		○

<Ⅱ. 数物・電子情報系理工学専攻（電力系）>

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
NC30014	エネルギーシステム論	2	TD1 以上	○	○
NC30024	信号理論	2	TD1 以上	○	○
NC30041	VLSI システム設計	2	TD1 以上	○	○
NC30064	知能システム論	2	TD1 以上	○	○
NC30084	符号理論	2	TD1 以上	○	○
NC30091	デジタル回路論	2	TD1 以上	○	○
NC30101	ナノフォトンクス	2	TD1 以上	○	○
NC30114	離散システム特論	2	TD1 以上	○	○
NC30121	フォトンクス理論	2	TD1 以上	○	○
NC30164	半導体光エレクトロニクス	2	TD1 以上	○	○
NC30184	マルチメディア移動通信	2	TD1 以上	○	○
NC30191	マイクロ波工学	2	TD1 以上	○	○
NC30211	電磁気学特論	2	TD1 以上	○	○
NC30234	アナログ CMOS 集積回路	2	TD1 以上	○	○
NC30241	集積ナノデバイス工学	2	TD1 以上	○	○
NC30254	電子デバイス特論	2	TD1 以上	○	○
NC30271	スマートグリッド論	2	TD1 以上	○	○
NC30281	超伝導エレクトロニクス	2	TD1 以上	○	○
NC30301	モーションコントロールシステム	2	TD1 以上	○	○
NC30321/ NC30324	応用物理コロキウムⅠ	2	TD1 以上	○	
NC30331/ NC30334	応用物理コロキウムⅡ	2	TD1 以上	○	
NC30341/ NC30344	情報システムコロキウムⅠ	2	TD1 以上	○	
NC30351/ NC30354	情報システムコロキウムⅡ	2	TD1 以上	○	
NC30361/ NC30364	電気電子ネットワークコロキウムⅠ	2	TD1 以上	○	
NC30371/ NC30374	電気電子ネットワークコロキウムⅡ	2	TD1 以上	○	
NC30481/ NC30484	集積エレクトロニクスコロキウムⅠ	2	TD1 以上	○	
NC30491/ NC30494	集積エレクトロニクスコロキウムⅡ	2	TD1 以上	○	
NC30411	電気機械エネルギー変換工学	2	TD1 以上	○	○
NC30421	メタヒューリスティクス	2	TD1 以上	○	○

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
NC30504	パワーエレクトロニクス特論	2	TD1 以上	○	○
NC30444	先端 IT エレクトロニクス技術が支える未来 講座	2	TD1 以上	○	○
NC31401	応用物理演習 A	2	TD1 以上	○	
NC31504	応用物理演習 B	2	TD1 以上	○	
NC31601	応用物理演習 C	2	TD1 以上	○	
NC31704	応用物理演習 D	2	TD1 以上	○	
NC31801	情報システム演習 A	2	TD1 以上	○	
NC31904	情報システム演習 B	2	TD1 以上	○	
NC32001	情報システム演習 C	2	TD1 以上	○	
NC32104	情報システム演習 D	2	TD1 以上	○	
NC32201	電気電子ネットワーク演習 A	2	TD1 以上	○	
NC32304	電気電子ネットワーク演習 B	2	TD1 以上	○	
NC32401	電気電子ネットワーク演習 C	2	TD1 以上	○	
NC32504	電気電子ネットワーク演習 D	2	TD1 以上	○	
NC32701	集積エレクトロニクス演習 A	2	TD1 以上	○	
NC32804	集積エレクトロニクス演習 B	2	TD1 以上	○	
NC32901	集積エレクトロニクス演習 C	2	TD1 以上	○	
NC33004	集積エレクトロニクス演習 D	2	TD1 以上	○	
NC38101	先端制御・エネルギーシステム設計 S	4	TD1 以上		○
NC38204	先端制御・エネルギーシステム設計 F	4	TD1 以上		○
NC38301	先端制御・エネルギーシステム実証 S	4	TD1 以上		○
NC38404	先端制御・エネルギーシステム実証 F	4	TD1 以上		○
NC38501	先端集積システム設計 S	4	TD1 以上		○
NC38604	先端集積システム設計 F	4	TD1 以上		○
NC38701	先端集積システム解析 S	4	TD1 以上		○
NC38804	先端集積システム解析 F	4	TD1 以上		○
NC39004	先端電磁波解析 F	4	TD1 以上		○
NC39101	先端電磁波設計 S	4	TD1 以上		○
NC39204	先端電磁波設計 F	4	TD1 以上		○
NC39301	先端情報システム I-S	4	TD1 以上		○
NC39404	先端情報システム I-F	4	TD1 以上		○
NC39501	先端情報システム II-S	4	TD1 以上		○

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
NC39604	先端情報システムⅡ-F	4	TD1 以上		○
QC30041	システム制御情報特論	2	TD3 以上	○	○
QC30054	デジタル回路特論	2	TD3 以上	○	○
QC30064	データストレージ特論	2	TD3 以上	○	○
QC30071	マイクロ波工学特論	2	TD3 以上	○	○
QC30094	メカトロニクス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30104	光量子エレクトロニクス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30114	集積ナノデバイス工学特論	2	TD3 以上	○	○
QC30131	知能システム特論	2	TD3 以上	○	○
QC30141	超伝導エレクトロニクス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30164	電力系統保護システム特論	2	TD3 以上	○	○
QC30181	符号理論特論	2	TD3 以上	○	○
QC30194	量子効果デバイス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30201	量子集積デバイス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30221	ナノフォトンクス特論	2	TD3 以上	○	○
QC30544	半導体電力変換システム特論	2	TD3 以上	○	○
QC35101/ QC35104	システム設計実習	4	TD3 以上		○
QC35201/ QC35204	システムデバイス実習	4	TD3 以上		○
QC35301/ QC35304	エネルギー・制御実習	4	TD3 以上		○

(3) 卓越俯瞰選択科目 (横浜国立大学大学院理工学府開講科目)

< I. 化学・生命系理工学専攻 (エネルギー・マテリアル系) >

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
N000011	理工学府 MPBL	2	TD1 以上	○	○
N000064	イノベーションと起業Ⅱ	2	TD1 以上	○	○
N000131	グローバルスタンダードの次世代ビジネス スキル	2	TD1 以上	○	○
N000141	イノベーションと課題発見Ⅰ	2	TD1 以上	○	○
N000151	イノベーションと課題発見Ⅱ	2	TD1 以上	○	○
N000161	標準化とビジネス	2	TD1 以上	○	○
N000171	神奈川県を取り組む技術課題	2	TD1 以上	○	○
N000184	プロジェクトマネジメント	2	TD1 以上	○	○
N009811/ N009814	理工学府海外インターンシップ	2	TD1 以上	○	○
NB12101/ NB12104	化学 TED 学外実習	2	TD1 以上	○	
NB21601	化学応用・バイオ学外実習	2	TD1 以上	○	
NB29811/ NB29814	化学応用・バイオインターンシップ L	4	TD1 以上	○	○
NB29821/ NB29824	化学応用・バイオインターンシップ M	2	TD1 以上	○	○
NB29831/ NB29834	化学応用・バイオインターンシップ S	1	TD1 以上	○	○

＜Ⅱ．数物・電子情報系理工学専攻（電力系）

時間割 コード	科目名	単位数	配当学年	TED	PED
N000011	理工学府 MPBL	2	TD1 以上	○	○
N000064	イノベーションと起業Ⅱ	2	TD1 以上	○	○
N000131	グローバルスタンダードの次世代ビジネス スキル	2	TD1 以上	○	○
N000141	イノベーションと課題発見Ⅰ	2	TD1 以上	○	○
N000151	イノベーションと課題発見Ⅱ	2	TD1 以上	○	○
N000161	標準化とビジネス	2	TD1 以上	○	○
N000171	神奈川県を取り組む技術課題	2	TD1 以上	○	○
N000184	プロジェクトマネジメント	2	TD1 以上	○	○
N009811/ N009814	理工学府海外インターンシップ	2	TD1 以上	○	○
NC31101	応用物理学学外研修	2	TD1 以上	○	
NC31201	情報システム学外研修	2	TD1 以上	○	
NC31301	電気電子ネットワーク学外研修	2	TD1 以上	○	
NC32601	集積エレクトロニクス学外研修	2	TD1 以上	○	

4. 先取り履修について

本プログラムに進入/編入する以前に、本プログラム要項の「3. 学科目配当表」(2)および(3)に記載の科目を履修していた場合は、その単位を本プログラムの修得単位として算入できるものとする。

IV. 卓越RA費の受給

1. 卓越RA制度

本プログラム生は連携機関や企業等との共同研究等に参画することにより、研究代表者等である指導教員等から卓越RA費を受給することができる。ただし、受給対象や受給額は各大学で異なる。また、社会人枠学生や安定的収入のある学生、休学中の学生、プログラム延長生は対象外となる。

2. 卓越RA費の受給

本学の規定に従い支給する。なお、以下の点に留意すること。

- ・本プログラム生は理工学府博士課程前期2年次に、理工学府特別研究員／特待生制度に必ず応募する必要がある。
- ・理工学府特別研究員／特待生制度の支給金額や、日本学術振興会特別研究員等の支給金額により、卓越RA費の支給金額を減額調整する。

V. 早稲田大学での学籍番号

本属が早稲田大学以外のプログラム生については、早稲田大学先進理工学研究科先進理工学専攻を受入箇所とする交流学生の学籍番号を定める。この学籍番号は、早稲田大学における在学期間を通じて変更はない。なお、年度後期よりプログラムに進入/編入する学生については、翌年4月以降に早稲田大学の学籍が発生する。

	1～2桁目	3～4桁目	5桁目	6～8桁目
	研究科コード	入学年度	専攻コード	通し番号
他大学本属学生	53	25	N	951～ (TD1) 851～ (TD3)

VI. その他

5年一貫制教育プログラムである本プログラムに進入した場合においても、理工学府博士課程前期の修了および博士課程後期への入学を保証するものではない。博士課程前期在籍者が博士課程後期に進学する際は、理工学府博士課程後期学生募集要項により、入学試験を受験し合格しなければならない。